「長岡」の 酒と食と花火

長岡技術科学大学 坪根 正 Tadashi Tsubone

1 はじめに

長岡市は、新潟県で新潟市に次いで2番目に人口の多い市ですが、具体的にどこに位置しているのかなどを知らない方も多いかと思います。筆者は東京から長岡に移り住んで20年目になりましたが、その間に知った長岡の情報や特徴を紹介させていただきます。

2 基本情報

新潟県は日本海に沿った長さが約330 kmもある縦長の形をしています。富山県や石川県の人が東北方面へ向かうときや、逆に秋田県や山形県の人が北陸方面へ向かうときなどに「新潟には用がないのに新潟での移動時間が一番長い」と笑い話が聞こえてくるというのは「新潟あるある」です。長岡市はそんな長い新潟県のほぼ中央に位置しています(図1)。かつては越後国だった新潟県、現在では新潟市がある北東側のエリアは下越地方、南西のエリアは上越地方、そして長岡市がある中央のエリアは中越地方と呼ばれています。

図1 新潟県の位置関係

京都に近い方が「上（上方、かみがた）」になるのは山口県の上関と下関の位置関係などと一緒にですね。

東京と新潟を結ぶ上越新幹線は、中越地方の長岡を通して終点の新潟駅へとつながっています。つまり関東地方からの移動を考えると、新潟市よりも長岡の方が近いことになります。東京-長岡は最短で90分弱ですし、大宮（さいたま市）からなら60分程度で長岡に着きます。長岡から首都圏へ通勤している人も多いそうですし、筆者自身も東京方面への日帰り出張は全く苦ではありません。上越新幹線は日本唯一だったオール2階建て新幹線（E4系、MAX）が2021年に引退しましたが、今後、新車両でスピードアップして運行時間も短くなるそうです。上越新幹線を利用して更に気軽に長岡へお越し頂けるようになると思います。ちなみに上越新幹線の名前の由来は、高崎駅と宮内駅（長岡市）を結ぶ在来線の上越線と同じで上野国（群馬県）と越後国（新潟県）を通るためだそうです⁽¹⁾。上越新幹線は上越地方へは行かず、上越地方を通る新幹線は金沢を終点とする北陸新幹線です（新潟県内の停車駅は上越妙高駅と糸魚川駅）。少しややこしいですね。

3 長岡駅周辺

長岡市の中心である長岡駅は、かつて長岡城の本丸があった場所に位置しています。長岡城は1868年に戊辰戦争でほぼ焼失し、一部の焼け残った門や橋なども売却されて、坂之上小学校の教育費などに充てられたそうです⁽²⁾。これは「米百俵の精神」を伝える逸話の一つとして語り継がれています。現在では長岡城の面影はほとんど残っておりませんが、長岡駅に隣接している二の丸跡地には長岡城址の碑がありますので、探してみるのも面白いかもしれません。その二の丸跡地には現在は「アオーレ長岡」という市役所本庁舎とアリーナなどが併設された複合施設が建っています。この建物は東京オリンピックのメインスタジアムと同じく隈研吾さんが設計さ

図2 長岡シティホールプラザ アオーレ長岡

図3 ぼんしゅ館 (長岡駅)

れたもので、プロバスケットボールチームの新潟アルビレックス BB のホームアリーナであるなど、市民の生活の中心になっています (図2)。

長岡駅の駅舎からは2階を結ぶスカイデッキを利用して徒歩3分で移動できるので、冬に雪が降っていても快適にアクセスできます。アリーナだけでなく200人規模で収容可能な多目的ホールもありますので、学会のイベントなどでの御利用を御検討下さるのもよいと思います。過去に電子情報通信学会では2019年のNOLTAソサイエティ大会⁽³⁾を実施して全国から多くの皆様に御参加頂きました。(ちなみに、筆者が実行委員長でした。)

4 酒と食

新潟県は酒どころとして有名ですが、新潟のお酒は「淡麗辛口」と言われており、すっきりした後味の残らない飲み口が特徴です。長岡市には酒蔵が県内最大の16蔵ありますが⁽⁴⁾、どこの酒蔵の酒もきれいで飲み飽きない、毎日でも飲みたくなる魅力を持っています。新潟県全体では80以上の酒蔵がありどこの酒蔵にも個性があるので、それらを飲み比べてみるのも大変です。そこでお勧めの場所を紹介します。長岡駅の中にある「ぼんしゅ館」です (図3)。

ここには新潟県内のほぼ全ての酒蔵の酒があり、全て試飲することができます。500円で「おちょこ」とメダルを5枚受け取って、そのメダルでずらっと並んだ(壮観です)利き酒マシーンから好みの酒を選択します。お猪口5杯分の利き酒を楽しめます。実はこのぼんしゅ館、新潟駅にも越後湯沢駅にもあるのですが、新幹線の改札の目の前にあるのは長岡駅だけです。(越後湯沢駅はお土産売場の奥にありますし、新潟駅は駅舎の外です。)お仕事帰りの新幹線を待つひととき、是非、お立ち寄り下さい。もちろん、お土産としてのお酒の販売も種類豊富です。

酒のつまみになる長岡の食も魅力いっぱいです。日

図4 「おもいのほか」

本海の海の幸やコシヒカリに代表される米などは説明不要かと思いますが、まだまだたくさんのユニークでおいしいものがあります。例えば枝豆。枝豆の生産量は新潟県が日本一です。ですが、枝豆で新潟県を連想する方は少ないのではないかと思います。その理由は、余り県外に流通していないからと言われています。余りにもおいし過ぎて県内でほとんど消費してしまうので、他県に出回らないというわけです。実際、朝に畑で収穫したものをその日のうちにゆでて食べる枝豆は最高です。新潟県では「黒崎茶豆」というブランド枝豆が有名なのですが、長岡の枝豆も負けず劣らず素晴らしいです。夏の期間に長岡へお越しの際は是非、試してください。ほかには、栃尾の油揚げ、柿の種(元祖は長岡市の浪花屋さんです)などがお土産にお勧めすると好評です。

そして秋から冬にかけては、食用菊も食べて頂きたいものの一つです。新潟県の独自の食文化では菊の花びらをごく普通に食べるのですが、これも酒のつまみにとても合います。新潟市など下越地方では「かきのもと」と呼ぶそうですが、長岡では「おもいのほか」と呼ばれています。一説には「思いの外おいしかった」からこの名前となったと言われていますが、実際に本当においしいです (図4)。

長岡市には「乾杯は長岡の酒でするべし」(少々在意

図5 旧三国街道と醤油蔵

図6 サフラン酒本舗の鰻絵蔵

訳あり)といった意味の法律が存在します。「長岡市日本酒で乾杯を推進する条例」という条例で2014年に施行されました。長岡へお越しの際は、是非、長岡の酒で乾杯しておいしいものを楽しんで下さい。

5 醸造の街

長岡市は自然が豊かなので郊外にもお勧めしたい観光スポットが点在しているのですが、ここでは長岡駅から少し足を伸ばせば行ける摂田屋地区を紹介します。

アクセスは電車なら長岡駅から一駅の宮内駅で下車、バスも幾つかの路線で運行しているので気軽に行くことができます。この街ではかつて醸造文化が栄えたそうで、現在でも味噌、醤油、そして日本酒を醸造している会社が立ち並んでいます。江戸時代に参勤交代に利用された三国街道の跡と言われている散歩道には、醸造会社が立ち並んでいます(図5)。鰻だし醤油「越のむらさき」の工場には昔のレンガ煙突なども残っていて素敵な景観です。

散策を進めると、旧機那サフラン酒本舗の蔵が見えます。「サフラン酒」とは明治時代から昭和初期にかけて薬用酒として「養命酒」と人気を二分したヒット商品だったそうです。

このサフラン酒で財を成した吉沢仁太郎さんの蔵には、その扉に鮮やかな着色がされた「鰻(こて)絵」を見ることができます(図6)。

十二支や空想上の動物などが美しく描かれていて、漆喰のなまこ壁にとっても映えます。このような色鮮やかな鰻絵はほかにはほとんど見られないようで「日本一の鰻絵」と称されています⁽⁵⁾。作者は河上伊吉さんという左官で、建物の壁には左官伊吉を略した「左伊」のサインを見付けることができます。探してみるのも面白いと思います。

摂田屋地区には吉乃川酒造や長谷川酒造などの酒蔵もあり、時期によっては(要問合せ)見学や試飲などもできます。ほかに、戊辰戦争のときの長岡藩本陣があった光福寺などもあり、長岡駅から数時間でアクセスして散策するに丁度よいのでは、と思います。

図7 長岡花火のフェニックス

図8 長岡市の位置関係

6 長岡花火

長岡で一番有名なのは長岡祭りで実施される長岡花火かと思います。日本三大花火の一つで8月2、3日に開催され、2日間で100万人以上の観客が訪れます。

元々は戦時中の長岡空襲からの復興の願いが長岡祭りの始まりとされていますが、近年では様々な日本の自然災害からの復興への祈りを込めて「復興祈願花火フェニックス」が上がります(図7)。この花火は圧巻で、涙を流す人も少なくありません。ほかの花火大会とは一線を画す長岡花火、皆さんに一度は見てほしいと思います。打上げ場所は長岡駅から徒歩圏内の信濃川河川敷なので、アクセスは抜群です。ただし、8月2、3日は長岡周辺だけでなく、新潟市や湯沢市などもホテルを予約するのが困難になりますので御注意下さい。この時期に来ることが難しい方は、前述のアオーレ長岡には長岡花火の3D映像を楽しめるシアターがありますし、自動車の場合は国道8号沿いの道の駅「長岡花火館」のドームシアターで年中花火の疑似体験ができます。

7 最後に

長岡は標高の高い山があり、日本海にも面していて、その中心には信濃川が流れている自然に恵まれた地域です(図8)。冬は雪も多く降りますが、上越新幹線や関越自動車道が関東圏から直線的に接続されているので、意外とお越しになりやすいところだと思います。筆者の勤務する長岡技術科学大学は“技学”の創成を理念として掲げ、大学院に重点を置いて設立されました。全国の高等専門学校の卒業生を第3学年に受け入れ、約80%が3年次編入生で占める工学系の大学です。電気電子情報工学専攻や情報・経営システム専攻では、ICT分野や数理データサイエンス分野の教育研究にも力を入れており、電子情報通信学会に関係する研究者も多くおります。是非、長岡へお立ち寄り頂ければと思います。

文献

(サイト閲覧日はいずれも2021年10月1日)

- (1) 上越新幹線活性化同盟会, <http://www.jouetsu-saa.jp/index.html>
- (2) 長岡市, 城・城跡, <https://www.city.nagaoka.niigata.jp/kankou/rekishi/shiro/>
- (3) 2019年電子情報通信学会 NOLTA ソサイエティ大会, https://www.ieice.org/nolta/society_conf/2019/
- (4) 長岡観光ナビ, 酒蔵, <https://nagaoka-navi.or.jp/feature/SAKE/sake>
- (5) 長岡観光ナビ, 摂田屋, <https://nagaoka-navi.or.jp/course/41952>

坪根 正 (正員)

平8法政大・工・電気工卒。平13同大学院工学研究科博士後期課程了。同年長岡技科大・工・電気系助手。平19同大学助教。平21同大学准教授。令3同大学教授。現在に至る。非線形システムの合成と解析などの研究に従事。博士(工学)。